

出羽三山 丑歳御縁年

開祖蜂子皇子と丑歳御縁年

羽黒山と月山を開かれた蜂子皇子が、さらに、草深い山中を分け入り険阻な坂である合向(がら)月光(むか)まで来ると、湯殿権現が現れ、その導きによって湯殿山を開くことができました。湯殿山参詣をもって三山参りの成就とするのは、現在・過去・未来の「未来」が湯殿山であると同時に、皇子の修行の成就でもあったからです。御縁年の意義は、出羽三山信仰の原点である開祖蜂子皇子の歩んだ道を心に刻み、自らの信仰を振り返ってみることであります。

【開祖蜂子皇子】

蜂子皇子は、崇峻天皇の第一皇子、聖徳太子の従兄弟にあたり、蘇我馬子の乱で崇峻天皇を暗殺され、その難を逃れるため、蜂子皇子は海路、船で北へと向いました。たどり着き、三本足の鳥に導かれて、羽黒山に登り、羽黒権現を感得し、続いて月山、湯殿山を開きました。羽黒山頂にある皇子の御墓は、東北地方で唯一の皇族の御墓であり、現在も宮内庁によって管理されています。



少彦名命は温泉の神

湯殿山は、大国主である大己貴命、山の神である大山祇命、そして少彦名命の三神を祀っています。少彦名命は、国造りの神であると共に、医薬となる温泉神・酒神とされています。古来より温泉は「常世より来る水」であり、貧者を富ませ、老人を若返らせると信じられています。まさに温泉は命の源泉です。



山岳信仰の御山としての発展

元来出羽三山神社は、自然崇拜、山岳信仰の古神道に源を発する神社です。平安初期に仏教の影響を受けて神仏習合の時代となり、明治維新までは「八宗兼学の山」とも称されました。悠久の歴史の中で幾多の変遷を経ながら、多様にして限りなく深い山岳信仰の世界を形成し、「東三十三ヶ国総鎮護」として、人々の広く篤い信仰に支えられて現在に至っています。



湯殿山にぬらす
袂かな



生まれ変わりの御山への篤い信仰

門前町手向の地域では、昔から白装束の参拝者を「道者さま」と呼び、遠路はるばる来山する道中の苦勞を労い、人々の真摯な信仰への敬意を込めて、厚くもてなしてきました。

「道者さま」は、羽黒山、月山の拝所で「三山拜詞」を唱和しながら登り、湯殿山に下り、全ての穢れを祓ってから大神の前に進みます。

羽黒山で現世利益を願い、月山で来世の極楽浄土を乞い、湯殿山で功德を得て再びこの世に生まれ変わること祈るのです。



出羽三山と牛の関係

丑歳が湯殿山御縁年とされる由縁については古来より諸説が唱えられています。

【開山説】…開祖蜂子皇子が、羽黒山、月山に続いて、湯殿山を開いたのが丑歳丑月丑日であった。

【山容説】…三山の全容が牛のうずくまった姿に似て臥牛山と呼ばれること。(頭が湯殿山、背中が月山、臀部が羽黒山)
【農耕説】…月山の残雪が牛のまだら模様に見える頃が農作業の始まりの

目安となった。

【火防説】…江戸大火の際、羽黒の神牛が風向きを変え、庄内藩江戸屋敷を救った。

このようにさまざまなた伝説や歴史と結びついて、牛と御縁年の関わりは多岐に渡っています。



【湯殿山参籠所】

- 開山期間(積雪期は閉山) 4月29日～11月3日頃
- 宿泊料 7,350円(1泊2食付)より
- 食事 1,575円より(但し団体等応相談)



【料金等のご案内】

- 開山期間/4月29日～11月3日頃まで(積雪期は閉山)
- 祓料/1名500円
- 祈祷/1件3,000円より(祈祷札に願意、氏名を記入)
- 護摩祈祷/湯殿山参籠所の神前に於いて行う
初穂料/1座(10名まで)30,000円、1名増毎3,000円
所要時間/約1時間
- 参拝/御祓料500円

◎お問い合わせは—
出羽三山神社社務所
Tel.0235-62-2355
〒997-0292
山形県鶴岡市羽黒町手向山向
FAX.0235-62-2352

URL <http://www.dewasanzan.jp/>

羽黒山三神合祭殿 Tel.0235-62-2356

[7月1日～9月15日]

月山神社本宮 Tel.090-8921-9151

[4月下旬～11月上旬]

湯殿山神社本宮 Tel.0235-54-6133

〒997-0532 山形県鶴岡市田妻俣字六十里山 FAX.0235-54-6143